

一 般 質 問 通 告 表

ページ

| | | | | |
|---|---------|-------|----|------------|
| ① | 中 村 実 | | 1 | (9月1日予定) |
| ② | 和 泉 克 彦 | | 2 | (〃) |
| ③ | 伊 藤 麗 | | 4 | (〃) |
| ④ | 保 坂 悟 | | 5 | (〃) |
| ⑤ | 利 根 川 正 | | 7 | (〃) |
| ⑥ | 東 野 恭 行 | | 9 | (9月4日予定) |
| ⑦ | 田 中 立 一 | | 10 | (〃) |
| ⑧ | 近 藤 新 二 | | 12 | (〃) |
| ⑨ | 新 保 峰 孝 | | 13 | (〃) |
| ⑩ | 渡 辺 栄 一 | | 15 | (〃) |
| ⑪ | 田 原 実 | | 17 | (9月5日予定) |
| ⑫ | 阿 部 裕 和 | | 19 | (〃) |
| ⑬ | 田 原 洋 子 | | 20 | (〃) |
| ⑭ | 宮 島 宏 | | 22 | (〃) |
| ⑮ | 古 畑 浩 一 | | 24 | (〃) |

質 問 事 項

① 中 村 実

1 シートゥーサミット 2023 について

【答弁者：市長】

7月16日午前6時に、能生海水浴場から筒石港南公園までの約6キロメートルをカヤックとサップでスタートし、次に港南公園からロッテアライリゾートまでの約51キロメートルをバイクで、そしてロッテアライリゾートから大毛無山1,429メートルの山頂までの約4キロメートルをハイクで、3種目を一日掛けて70組113人が挑戦した糸魚川・上越・妙高シートゥーサミット2023が無事に終了しました。この環境スポーツイベントは来年で3回目となりますが、その後の開催は県と3市でどのように考えているのか、また来年の開催に向け問題点はなかったのか伺います。

- (1) 今回のシートゥーサミットを終了し反省点はなかったのか伺います。
- (2) 定員上限が300名となっていますが、来年の見込みはどうでしょうか。
- (3) 次回で3回目となり3市の持ち回りが終わりますが、その後の開催は考えているのか伺います。
- (4) 今後は糸魚川市だけのシートゥーサミットのような環境スポーツイベントも考える必要があると思いますが、いかがでしょうか。

2 市内の残土処理状況について

【答弁者：市長】

糸魚川地域では現在地域高規格道路松本糸魚川連絡道路と国道8号糸魚川東バイパスは一部完了、親不知道路は調査及び設計中と聞いています。いずれも発注者は市ではありませんが、市としては地元住民との調整役が大きな役割だと思います。

今のところ松本糸魚川連絡道路は少しずつ工事が進められていますが、東バイパスは大きな進捗は見られず、梶屋敷で工事が中断してから、いまだに計画が示されていない状況であります。また、親不知道路はこれからの調査設計という状況ですが、いずれもトンネル工事のため大量の土砂が発生します。発生土砂の処分地はどのように考えていますか。また、国・県・市発注土木工事やガス水道局発注工事は個々の業者が残土処理をしています。今後同じ処理方法を考えていくのか、次の点について伺います。

- (1) 松本糸魚川連絡道路・東バイパス・親不知道路の残土処理の適地はあるのか伺います。
- (2) 発注先の残土処分場の安全性について調査をしているのか伺います。
- (3) 掘削土砂の再利用は考えていないのか伺います。

質 問 事 項

② 和 泉 克 彦

1 地域公共交通の現状と課題、地域観光振興について

【答弁者：市長】

新型コロナウイルス感染症が、2類相当から5類に移行したことにより、コロナ禍よりは交流人口、特に外国人の方々が増えています。この夏のまれに見る厳しい暑さにもかかわらず、多くの方々が、様々な交通手段を利用してこの糸魚川市を訪れています。中でも、多くの方々が、北陸新幹線を始め、大糸線やえちごトキめき鉄道などの鉄道を利用されているところを度々目にしたことから、糸魚川市の観光振興に寄与したものと思われまます。そこで、以下について質問いたします。

- (1) 来春に控えた北陸新幹線、敦賀延伸に向けた本市としてのこれまでの新幹線利用促進の現状と今後の課題について伺います。
- (2) 8月19日～21日の3日間にわたり、大糸線ファンミーティングが開催されましたが、このイベントの様子や結果を、大糸線存続に向けてどのように捉えているのでしょうか、伺います。
- (3) えちごトキめき鉄道の観光急行やえちごトキめきリゾート雪月花を多くの方々が利用されていますが、地域観光振興という視点で、この現状をどのように捉えているのでしょうか、伺います。

2 生涯現役社会に向けた高齢福祉施策について

【答弁者：市長】

現在、日本全体が超高齢社会に突入しています。65歳以上の人口は、約30年前の平成6年には14.1%でしたが、昨年10月には29.1%になりました。つまり、ここ30年で65歳以上の人口のシェア（占有率）は倍増し、日本人の3人に1人がシニア層になる社会が到来しつつあります。これは日本全体の話ですので、都市部より若者が少ない地方では、より激しい変化が起きています。本市では、現在、65歳以上の人口のシェアは40.95%であり、約2.5人に1人がシニア層です。

このような超高齢社会において、シニア層の方々が「幸福に生き切ることができるかどうか」ということは、とても大切なことではないでしょうか。もちろん、「幸福」と言っても、いろいろな考え方があると思います。病気で苦しむことなく身体が健康で、「生きがい」があるかどうか。これが重要なのではないのでしょうか。ただ、「病気の人が必ず不幸」というわけではありませんが、身体が苦しいのに、幸福感を維持するのはなかなか大変なのではないかと思われまます。また、身体が健康でも、お年寄りだからということで、生きがいを奪われてしまえば、これも苦しいのではないのでしょうか。ですから、シニア層の方々の幸福の実現に向けて、「健康」と「生きがい」

質 問 事 項

というものを大切にすべきだと考えております。

現在、政府も「女性も男性も、若者もお年寄りも、障害や難病のある方も、家庭で、職場で、地域で、あらゆる場で、誰もが包摂（一定の範囲の中に包み込むこと）され活躍できる社会『一億総活躍社会』の実現」を進めております。ですから、当市においても、この「生きがい」というものを、もっと事業の柱とし、「生きがい」の最大化というものも事業で目指していくべきではないでしょうか。そこで、以下について質問いたします。

(1) シニア層向け事業を通じた「生きがい」を育める地域づくりについて

- ① 国が推進する「『一億総活躍社会』の実現」に向けて、当市として、シニア層の活躍において、特に重視している事業等について伺います。また、その達成に向けて行っている事業とその評価について伺います。
- ② 就労支援も含めた高齢福祉施策において、シニア層の方の幸福の実現に向けて、「生きがいを育む」ことが重要だと思いますが、行政としてはどのように考えておられるのか伺います。
- ③ 当市におけるシニア層の方々の活躍に向けて、「生きがいの最大化」を目指し、関連事業において、その達成に向けた事業を設定するのはいかがでしょうか。
- ④ 当市においても、少子高齢化により、更に歳出圧力が高まると考えられますが、シニア層向け事業の「持続可能性」をどのように高めていこうと考えておられるのか、その計画について伺います。

(2) シニア層の就労・社会参加支援事業について

- ① 当市における65歳以上の方の就業状況はいかがでしょう。また、年代別、性別、業種別、収入別等での分析は行っていますでしょうか。
- ② 当市において、シニア層の就労ニーズが高い業種、また、企業側からのニーズについて伺います。
- ③ 希望するシニアの方を企業に1週間～2か月程度の短期派遣を行うことで、企業とシニア層のマッチングを図る制度を開設するのはいかがでしょうか。
- ④ 当市において、シニア層の新しいスキルの習得を支援する事業について伺います。

(3) シニア層の福祉・介護事業について

- ① 当市において、要支援・要介護の状態改善を目指すような取組について伺います。
- ② 当市において、介護事業でシニア層の「生きがい」を育めるような取組について伺います。
- ③ 当市においても、介護事業所で就労・社会参加活動が可能となるような取組や啓発活動等を進めていくべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。
- ④ 当市における介護事業で、「生きがいを最大化する」という視点に立って、

質 問 事 項

取り組むべきではないかと思いますが、いかがでしょうか。

- ⑤ 当市においても歳出圧力が高まる中、介護事業の「持続可能性」を高めるための取組について伺います。

③ 伊 藤 麗

1 第3次総合計画 2つの重点課題について

【答弁者：市長】

市は最重要課題である人口減少・少子化に対応するために庁舎内に人口減対策推進体制を組織しました。

最重要課題が、人口減少・少子化であるということについて私も同意見であり、第3次総合計画にある2つの重点課題とされる人口減少対策と住み続けたくなるまちづくりに対してどのように取り組むのか伺います。

- (1) 人口減少対策プロジェクトが今の段階で情報収集・分析したことと、来年度に向けての方向性を伺います。
- (2) 3つの重点項目を健康・地域経済・教育とした理由と、人口減少対策と住み続けたくなるまちづくりに通じる取組や施策を伺います。
- (3) 市として、今後特に力を入れる分野を伺います。

2 学び方の選択肢について

【答弁者：市長、教育長】

糸魚川市教育委員会は、7月14日上越教育大学で「不登校特例校」についての学習会と妙高市立新井南小学校で「小規模特認校」の市外視察を行いました。

また、総務文教常任委員会は、8月17日委員会協議会で、この春糸魚川市で開校したフリースクールに関わるTUMUGUプロジェクトの皆さんとの意見交換会を行いました。

糸魚川で学ぶ場所、学ぶことを選択肢が増えることは、いじめや不登校児童の減少につながるから考えることから、以下を伺います。

- (1) 不登校特例校及び小規模特認校について、市内での実現可能性はどの程度か、視察後の検討状況を伺います。
- (2) フリースクール等利用支援補助金を創設する考えはあるか伺います。

質 問 事 項

④ 保 坂 悟

1 子育て支援について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 学校給食の無償化について

- ① 給食の無償化を検討しているか。また、県内自治体の取組を把握しているか。さらに、国の動きを把握しているか。

(2) 「子ども誰でも通園制度の導入」について

- ① 制度導入について検討しているか。
- ② 保護者の孤立防止などが狙いと考えるが、具体的にどのような効果を期待できるか。

(3) 駅北子育て支援複合施設について

- ① 駅北大火の復興シンボルの施設との周知はできているか。
- ② 施設整備に併せて、新しい時代を生き抜く子どもたちに必要な体験や家庭教育支援を意識した糸魚川市の構想と展望を考えているか。
- ③ 総務文教常任委員会でパブリックコメントの審査が終了したことを受けて施設の機能拡充点や変更点を固めているか。
- ④ 屋内遊戯施設の必要性について、市民に分かりやすく説明する手法を考えているか。
- ⑤ 糸魚川市の後継者を育成する施設として「生きる力と考える力と体力を育てる子どもセンター」とする考えはあるか。

2 糸魚川市希少野生動植物保護条例について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 監視体制について

- ① 「希少野生動植物保護監視員」を置くことができるとあるが、資格は必要になるのか。監視員のメンバーや体制は決まったのか。

(2) ユネスコ世界ジオパークの認定基準への影響について

- ① 希少動植物がいなくなると認定されないことがあるのか。

(3) 糸魚川市のレッドリスト・レッドデータブックの作成について

- ① レッドリストとレッドデータブックの作成の計画はあるのか。
- ② 植物の専門家、鳥類の専門家、哺乳類の専門家、両生類とは虫類の専門家による監視体制をどのようなレベルで整えるのか。

(4) 環境生活課、建設課、農林水産課、教育委員会の連携について

- ① 準絶滅危惧種のカワニナについて、生息地の河川工事等で支障は出ないか。工事前に実態調査を行っていくのか。

質 問 事 項

- ② 準絶滅危惧種のギフチョウについて、青海小学校の児童が取り組んでいただいたが、絶滅危惧種ではないため、採取しても問題ないことになっている。教育的視点からどのような対応を考えていくのか。
- ③ 大和川地域では絶滅危惧種二類のトノサマガエルが生息しているらしいが、水田のほ場整備等があるときどのような対応を行うのか。

3 行政サービスの拡充について

【答弁者：市長】

- (1) 糸魚川市の広報とホームページの役割について
 - ① 耐震診断と補強工事の補助制度の周知はできているか。
 - ② 要約筆記や手話の支援体制の周知はできているか。
- (2) 還付金等の申請方法について
 - ① 行政手続上、介護保険料の還付について、還付金振込申請書を返送するように記載してあるが、本来「返送用の封筒」を入れておくべきと思うが、こうしたものの基準はどうなっているのか。
- (3) 帯状疱疹ワクチン接種費助成^{ほうしん}について
 - ① 定期接種化に向けた県内自治体との連携について動きはあるか。
 - ② 国の動きは、まだ時間が掛かるようだが、市独自の接種費助成を行う考えはあるか。
- (4) 認知症等の徘徊防止対策について
 - ① どこシル伝言板、徘徊センサーの導入は評価をしているが、更に「徘徊GPS」等のサービスを拡充する考えはあるか。
- (5) 外国人観光客の受入体制について
 - ① Wi-Fi環境の拡充について検討しているか。
 - ② 長期滞在型の観光メニューづくりを検討しているか。

4 新しい持続可能なまちづくりについて

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 多様な価値観を受け入れる施策について
 - ① 公園を含む公共施設のトイレの在り方について、取組はどうなっているか。
 - ② 結婚観や働き方の多様化についての周知を行っているか。
- (2) 官民連携について
 - ① 観光・農林水産業・公共交通機関を相互連携できる公社設立についての考えはあるか。

質 問 事 項

- ② 産前産後・子育て・社会性教育の支援体制の構築について、取組はあるか。
 - ③ 小中高生の「考える力」と「学ぶ力」の育成プランのメニュー化を考えているか。
 - ④ 10歳までの体験格差の解消や体験機会の提供について、取組はあるか。
- (3) 教育・福祉分野における就労や社会参加の支援体制について
- ① キャリア教育推進協議会の設立の考えはあるか。
 - ② 障がい者や発達障がいがある方の雇用支援策を行っているか。
 - ③ 不登校者の社会活動支援策は行われているか。

⑤ 利根川 正

1 中山間地域における農業について

【答弁者：市長】

- (1) この夏の中山間地域の水田の現状は、7月21日以降雨が降らず、8月16日の少量の雨で終わっています。5年前の干ばつ以来で、糸魚川市の中山間地域では、雨水による天水田が干涸び、稲の葉が枯れる被害が見られます。また、野菜類の多くも、水不足による被害が発生しています。

コシヒカリの成熟時に、過去にもありましたが、台風6号のフェーン現象で登熟不良の発生で胴割れ、白未熟粒が心配されます。

9月の収穫で規格外の米が相当の割合で発生し、価格も大幅に下がる、厳しい状況が予想されます。また、水田のひび割れも多く発生しており、今後大きな雨が降ると、早川でも起きた土砂災害が心配されます。そして、春耕作に向けてもひび割れの修復など進めていかなくてはなりません。

また、ガソリン価格の高騰に対しても支援が必要で、これは、農業に限らないですが、燃油価格の上昇に応じて補填金の交付が求められています。

以上のことから、糸魚川市の農業支援対策について伺います。

- (2) 農業所得向上について

この春、企業において賃上げが行われました。また、本県の最低賃金も今後931円とする見解が提示されました。しかし、新たに最低賃金が1,000円を超える5府県も上乘せされているため、地方と都市の地域格差は、埋まらない状態が続いています。

農業従事者の所得を向上させることが安定と継続につながります。年1回の収穫で金額が決まりますが、今回、全国農業協同組合連合会新潟県本部は、JAの一般コシヒカリの仮渡金(60キロ当たり)の金額を昨年より200円上げて提示さ

質 問 事 項

れました。また先週、JAひすいの仮渡金が各農家に提示され、400 円の上げでした。近年の燃料費の高騰、物価高の影響、農業資材の値上げ、この夏の渇水の影響などから考えると、この金額でよいのでしょうか、糸魚川市の考えを伺います。

(3) 主食米の販売動向と生産者計画について

農林水産省が公表した、全国の主食用米の今年5月までの在庫量調査では、作付け転換や業務用需要が回復していることから前年の在庫量を下回っています。

しかし、価格が高い新潟県産米は、物価高や消費者の節約志向により販売が低迷していて、前年の在庫量を上回っている現状です。また、精米小売価格では、コシヒカリは、横ばいで推移しており、反面、コシヒカリ以外は上昇しています。近年、売れているのは、価格の安いコシヒカリ以外のお米です。

この現状を考えると、糸魚川市において、コシヒカリの生産調整をして、こしいぶき、飼料用米に変える必要があるのではないかと思います。糸魚川市の考えを伺います。

(4) 中山間地域の農業の後継者問題について

糸魚川市の農業において、担い手の確保が一番の課題ですが、個人の経営では限界があり、中山間地では、集落営農組織の法人化、また、地域おこし協力隊員の確保も今後重要と考えます。糸魚川市において、法人の経営安定化、また、支援員の指導など、どのように取り組むか伺います。

2 森林環境譲与税について

【答弁者：市長】

(1) 令和6年度から森林環境譲与税が全額譲与となりますが、糸魚川市では、5,000万円ほどとなり、森林整備、人材育成、林道整備、木材利用などに使われますが、参考になる多くの自治体の事例などがあり、糸魚川市に適した使い方を考える必要があります。森林所有者の不明な森林台帳と地図整備の実施、また、土砂災害の防止や水源確保等森林の機能を活かした伐採計画など、令和3年4月に「糸魚川市森林整備計画」が作成されましたが、実施状況と今後の計画について伺います。

3 認知症と共に生きる地域づくりについて

【答弁者：市長】

2025年には約730万人、高齢者の5人に1人になると推計される認知症は、誰にとっても無縁ではない脳の病気です。

先の国会で議員立法により成立した「認知症基本法」においては、認知症になっても尊厳を持って、安心して暮らせる社会づくりが急務として、自治体には地域の実

質 問 事 項

情に合わせた計画づくりを努力義務として、本人や家族の声を聴くことも求められています。糸魚川市において認知症の人との共生社会の実現を推進するために、以下のことを伺います。

- (1) 認知症の人の尊厳を保持するために、介護現場や社会において必要かつ実践していかねばならないことについて伺います。
- (2) 認知症の人が自らの意思によって日常生活や社会生活を営むために、糸魚川市において整えていかねばならないことについて伺います。
- (3) 糸魚川市にお住いの若年性認知症の方と家族が抱える課題について伺います。
- (4) 糸魚川市にお住いの高齢者の認知症の方と家族が抱える課題について伺います。
- (5) 認知症による徘徊から引き起こされる行方不明対策の実態と課題について伺います。

⑥ 東 野 恭 行

1 物価高・エネルギー価格の高騰による糸魚川市の対応について

【答弁者：市長】

- (1) 物価高の影響による賃上げは、企業の重要課題と考えるが、業績が伴わない人件費上昇は経営に深刻な打撃を与えると考えます。価格転嫁に向けたサポートや各種税の引下げ、収益力を高めるための投資支援など、即効性のある対策が急務と考えるがいかがか。
- (2) 令和3年度から始まった第2次糸魚川市新エネルギービジョンの中で、「市内に多様な新エネルギーの普及を目指すため、幅広いエネルギーの導入に対しての補助制度を検討します。」とありますが、進捗と成果について伺います。
- (3) 新潟県では、再生可能エネルギー設備の導入を促進し、地球温暖化の防止と県内産業の振興を図るため、自家消費を目的とした再生可能エネルギー発電設備・熱利用設備、蓄電池設備等を導入する「事業者」に補助していますが、更に糸魚川市として後押しするお考えはあるか伺います。
- (4) 東京都は2025年度から太陽光発電設置義務化に関する新たな制度を始めますが、省エネとカーボンニュートラルの観点から、糸魚川市として現在の制度を拡大、補助率を上げるなど検討するお考えはあるか伺います。

質 問 事 項

2 不登校児童生徒に対する糸魚川市の対応と考え方について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) いじめ・不登校の問題は、毎年認知件数も増えており、糸魚川市の教育の現場も対応に奔走されていると考えるが、教職員にかかる負担やケアについて、どのように対応し取り組んでいるのか伺います。
- (2) 教育の現場において、相談員等の人員が不足していると考え、人員増強のために、募集や育成などの検討はあるか伺います。
- (3) 糸魚川市として不登校児童生徒の「社会的自立」について、現在までどのような対応をされ、今後どのような支援をお考えか伺います。
- (4) 糸魚川市は、ひとみかがやく日本一の子どもを育てるため、平成21年度に「0歳から18歳までの子ども一貫教育方針」を策定しましたが、義務教育の課程を終了した不登校の子どもたちへの支援をどのように考え、取り組んでいるか伺います。
- (5) 不登校児童生徒の「社会的自立」に向けた官民連携の取組支援についてお考えがあるか伺います。

⑦ 田 中 立 一

1 農地の渇水について

【答弁者：市長】

今夏は梅雨明け以降ほとんど雨が降らず、連日猛暑が続いたことで市内各農地では渇水が深刻化し、農業用水の不足による影響が多く見受けられ、生産者からの嘆きの声も聞かれる。

こうした状況を受け、市では8月18日「農地渇水・干ばつ対策」を発表し、救済・支援に乗り出しているが、現時点での被害と支援の状況について以下伺う。

- (1) 水田への影響について
 - ① 枯れた水稻を始め、生育・品質への影響をどのように把握しているか。
 - ② ひび割れなど水田の被害状況について
 - ③ 市の支援策に対する申請状況と生産者の要望について
- (2) 夏野菜や秋まき野菜など園芸作物への影響について
- (3) 来年以降の農業への影響と対策について

質 問 事 項

2 治山事業について

【答弁者：市長】

(1) 徳合・筒石治山事業について

令和5年6月定例会で本事業について伺ったところだが、直下にお住まいの筒石地区の住民にお話を聞くと、「(治山事業の工事は必要であり計画どおり進めてもらいたいが)地震などの災害時において上部法面のコンクリートが落ちてこないか心配」との声が聞かれることについて、市の所見を伺う。

(2) 来海沢治山事業について

8月10日に行われた「来海沢地すべり対策」の対応についての説明会には多くの関係者が集まり、暑い中、現場の視察を始め説明会場では多くの意見や質問が交わされた。

中でも5月29日に発生した「No.2谷止工の変状」について心配される質疑が見受けられたことから以下伺う。

- ① なぜNo.2谷止工の変状が発生したか。
- ② 設計・施工の検証はされているか。
- ③ 応急対策工事について
- ④ 本復旧工事の災害査定と予定工期及び強度について

3 健康づくりセンター「はびねす」第1期工事入札に関する県単価漏えいについて

【答弁者：市長】

令和5年6月定例会一般質問において、健康づくりセンター「はびねす」第1期工事の実施設計業務成果品単価が県単価と一致していることが判明した。

このことに対する市の所見を改めて伺う。

また資料提供について、「市としてもう一度、県のほうに当時の単価を確認して…」と述べたことについて、その後の経緯を伺う。

4 駅北大火復興市営住宅実施設計業務委託について

【答弁者：市長】

令和5年6月定例会一般質問で、構造計算適合判定について、「特に契約の金額に関する部分というのは、後々のトラブルになりかねんケースがありますので、工事の中で協議簿みたいなのを交わしたり、業務委託の場合は、打合せ簿が交わされ、特にお金に関しては財政課と共有して管理するという協議簿に、金銭的な協議がない。」という説明だったが、どういうことか。

質 問 事 項

基本的なことと思うがなぜないのか。
また、答弁の中で「透視図を1枚つけた」と述べているが、構造計算適合判定とどういう関連、意味を持つのか伺う。

⑧ 近 藤 新 二

1 食料品アクセス問題について

【答弁者：市長】

近年、食料品店の減少等に伴い、過疎地域のみならず市街地においても、高齢者を中心に食料品の購入に困難を感じる消費者が増えてきており、食料品の円滑な供給に支障が生じる等の「食料品アクセス問題」が顕在化しています。この問題の解決には、民間事業者や地域住民のネットワーク等による継続的な取組が重要ですが、食料の安定的な供給等の観点から、住民に最も身近な地方公共団体に加えて、国においても関係府省が連携して取り組んでいくことが重要とされています。

食料品アクセス問題は、当初「買物難民」「買物弱者」あるいは「フードデザート（食の砂漠）」など、その分野によって様々な呼び方や定義がされているものの本質的な違いはなく、日常的な食料品の買い物に不便や苦勞を来す住民が増加しているといった社会背景を捉えたもので、これら食料品アクセス問題の背景には、我が国の高齢化に示される高齢者人口の増加とともに、食料品を購入できる店舗の減少といった要因が挙げられます。

また、食料品アクセス問題は買い物といった流通上の問題にとどまらず、住民の生活基盤の喪失という地域社会の在り方が問われる社会問題であるとともに、食生活を通じて個人の健康にも影響を及ぼす健康問題としての側面も備えた複雑な問題として認識されています。

以下、糸魚川市の取組について伺います。

- (1) 食料品アクセス問題の取組について
- (2) 移動販売事業の現状と課題について

2 小学校の夏休みプール開放について

【答弁者：教育長】

ギラギラと照りつける太陽の下、立っただけでダラダラと汗が流れる夏。今年の夏は酷暑とも言われている中で、公共料金や電気代の高騰からエアコンを控える家庭もあり、夏休み中の子どもの健康を心配している保護者も多かったと聞いていま

質 問 事 項

す。

そんなときの救世主となるのが、夏休みのプール開放です。暑くて家の外に出たがらない子どもも、プールとなれば喜んで行く場合がほとんどのようです。昭和や平成初期に小学生だった方には、夏休みの思い出として開放された小学校のプールで、水しぶきをあげて遊んだ思い出を持つ方も多いと思います。小学校の「夏休みのプール開放」は、その学校に通う児童を対象とし「先生に泳ぎ方を教えてもらう」「自由にプールで遊ぶ」ことができ、スポーツに親しむきっかけになります。授業のない夏休みに児童たちに遊泳や水遊びを楽しんでもらうプール開放は、新型コロナウイルス禍の2020、21年は水泳の授業中止に合わせて実施されなかったようですが、コロナによる制限がなくなった今季も見合わせを決めた小学校が多くあると聞いています。

以下、糸魚川市の考えを伺います。

- (1) 夏休みプールの開放状況について
- (2) 夏休みプール開放中止によるメリット、デメリットについて
- (3) 学校プール利用マニュアルについて

⑨ 新 保 峰 孝

1 産婦人科医師確保の取組について

【答弁者：市長】

- (1) 令和5年4月から糸魚川市内で出産できない状態が続いています。医師の働き方改革は必要ですが、妊婦の安全な出産を考えたとき、現状をどのように捉えているか。
- (2) 全国的に見て新潟県は医師数が少ない県となっているとのことです。新潟県地域医療構想はそれを前提に構成されており、糸魚川市の位置づけを産婦人科で見た場合、厚生連糸魚川総合病院での出産対応はしないで上越市の拠点病院に配置する考え方だと思いますが、どのようにお考えか。
- (3) 高齢化と出生数減少が予想される厳しい状況であっても、市民が安心して暮らせるまちづくりが必要と考えます。そうした努力をしなければ人口減少に拍車をかけることになるのではないかと考えます。出産対応もそうした観点が必要ではないかと考えますが、いかがお考えか。
- (4) 新潟県地域医療構想では、上越圏域の中心となる上越市の県立中央病院を核とした医療機関の分担が考えられているように思います。糸魚川保健所は残っていますが、このまま進めば糸魚川地域の医療体制が後退していくのではないかと。

質 問 事 項

- (5) 糸魚川市の地域医療を考えた場合、富山県との連携を今後も強化していかないと、医療体制が維持できないのではないかと、

2 新型コロナウイルス感染症の対応について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 日本医師会の会長が連休明け並びに再度夏にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されると述べていましたが、そのように推移してきたように思います。これまでの感染状況をどのように捉えているか。
- (2) 感染症法上の「2類相当」から「5類」に変更後、糸魚川市と関係者間の連携はどのようになされているか。
- (3) 現状においても、祭りや大きな集まりにはコロナ感染に注意が必要と思いますが、どのように対応しているか。
- (4) 今後の感染対策としては、どのように対応していくお考えか。

3 地球温暖化の影響について

【答弁者：市長】

- (1) 地球温暖化のタガが外れたような災害が続いています。徐々に温暖化が進む状態から急激に進む状態に悪化し、様々な大規模自然災害が起こっているように思います。生態系への影響も言われていますが、当市の一次産業への影響をどのように捉えているか。また、市民生活への影響はどうか。
- (2) 農業の干ばつ被害と用水の確保についてはどのようになっているか。
- (3) 林業に対する温暖化の影響はどうか。
- (4) 漁業に対する温暖化の影響はどうか。
- (5) 今年の夏はどの世帯も猛暑対策に苦労されたのではないかと思います。市としてどのように把握されていますか。

4 にぎわいの拠点施設について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) 地球温暖化は、タガが外れてしまったと言われる状態です。今後、これまで以上の速度で温暖化が進むことになると思われます。温暖化の影響は、猛暑、山火事、南極の氷が減少していく等、様々な形で表れると思います。公共施設を建設する場合、これまで以上にどのような施設かを考えて場所や規模等を判断する必要があるのではないかと。

質 問 事 項

- (2) 駅北大火復興のシンボリック施設としてにぎわいの拠点施設が考えられてきましたが、街づくりの観点から駅北をどうしたいのか、駅南も含めどうしたら糸魚川らしさを出すことができるか、都市計画に基づいて考える必要があると思いますが、いかがお考えか。
- (3) 施設を考える場合、北陸新幹線糸魚川駅の北側と南側をどうするかという長期的な視点も必要ではないか。
- (4) 今後、北陸新幹線が京都・大阪まで整備され、大糸線の未電化区間が整備されるようになれば、信州方面との新たな展開も考えられるのではないか。先を見据えた対応が必要と考えるが、いかがお考えか。

⑩ 渡 辺 栄 一

1 今夏の異常な高温現象等に伴う対策について

【答弁者：市長、教育長】

8月に入ってから少雨だけでなく、高温が続いている。市内産業や市民生活に著しく影響が出ることが懸念されるが、その対策について伺う。

- (1) 県内各地でも渇水による農業用水の不足が報道されているが、市内の状況はどうか。
- (2) 農産物における高温に伴う病虫害の発生が懸念されるが、市内の状況はどうか。
- (3) 海水温の上昇などで漁獲量の低下が懸念されているが、市内の漁港の状況はどうか。
- (4) 東北地方の福島では、処理水の放出が開始された。本市は日本海側で比較的遠隔の地であるが、全ての日本の水産物を一律に禁輸する中国などの国も現れている。このことで市内の漁業に影響は見られるか。
- (5) 高温で養鶏や畜産などにも悪影響が懸念されているが、市内の状況はどうか。
- (6) これらの産業をサポートする具体策を検討しているか。
- (7) 高齢者を含めた熱中症の疑いのある搬送件数は、例年に比べどのような状況か。
- (8) 既に2学期が始まっている市内の小中学校についても、十分な対策が必要と思われる。熱中症などの報告はないか。どのような配慮をしているのか。

質 問 事 項

2 糸魚川市デジタル地域通貨について

【答弁者：市長】

糸魚川市デジタル地域通貨振興協会は8月21日、今年度中の導入を目指すデジタル地域通貨の名称を「翠（すい）ペイ」に決まったと発表した。今後の運用について伺う。

- (1) 導入しなければならない背景にあるものは何か。
- (2) いつから事業者を対象とした説明会や利用者向けの周知をするのか。また、どのくらいの規模・金額を見込んでいるのか。
- (3) 普及させるためにどのような特典を考えているのか。
- (4) スマートフォン操作が苦手な方や高齢の方にはどのようなことを考えているか。

3 糸魚川市男女共同参画推進について

【答弁者：市長】

性別に関係なく、多様な生き方を選択でき、個性と能力を発揮できる社会を実現するため、「いといがわ男女共同参画プラン」を策定し、関係機関、関係団体と連携して、各種事業に取り組むとあるが、現況について伺う。

- (1) 目標値はどのようにして算出しているのか。
- (2) 第3次いといがわ男女共同参画プランの進捗管理シートでは、ほとんどの項目で平成27年度の現状値から未達成であったことについて、その理由を把握しているか。
- (3) 女性が活躍できる基盤づくりにおいて、雇用等における男女平等の推進や働き方の見直しと仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進で障害となっているものは何だと捉えているか。
- (4) ハラスメント等を許さない意識啓発を推進させるために、具体的にどのようなことを行っているのか。

4 再生エネルギーの活用・推進について

【答弁者：市長】

地球温暖化防止のため、脱炭素の取組を地域産業の活性化につなげる必要があると考える。今後の展望について伺う。

- (1) 当市の豊かな水資源を活かし、事業の採算性など地域資源活用に係る可能性に

質 問 事 項

- ついて、どのように捉えているか。
- (2) 地域経済の重点項目にはあるものの、当市がクリアしなければならない課題は何か。
- (3) 自治体新電力会社を設立し、エネルギーの地産地消の仕組みを構築できるのは、いつなのか。

⑪ 田 原 実

- 1 糸魚川総合病院の基幹病院としての役割と市民が望む地域医療体制確保への市の責任について

【答弁者：市長】

- (1) 7月30日に市が主催した地域医療フォーラムの成果について伺います。
- (2) 市民が心配する、市内出産ができないことへの対応について伺います。
- (3) 猛暑により体調を崩し搬送された方はどのくらいおられますか。また、このような猛暑が今後何年間も続いたり、逆に冬季間に豪雪になった場合には医療の現場でどのような状況が生まれるとお考えですか、伺います。
- (4) 市民が心配する、糸魚川総合病院の医師、看護師、診療科確保ができないことへの対応について伺います。
- (5) 新潟県の医療構想を進めることで糸魚川圏域の医療がダウンサイジングし、市民の医療への不満や不安が増していくことを懸念します。米田市長の対応策を伺います。

- 2 駅北子育て支援複合施設基本計画の問題点と市民合意について (2)

【答弁者：市長】

- (1) 前回6月定例会の一般質問で提案した、子育て、図書、交流機能の機能を複合させて多くの利用がある長野県塩尻市広丘支所「えんてらす」の計画・設計・運営を調査・研究されましたか。「えんてらす」の優れたところをご理解いただきましたか、伺います。
- (2) 前回6月定例会の一般質問でも施設の建設と運営について市は公民連携の手法の一つとしてDBO方式を進めたい旨の答弁を繰り返していますが、そうしなければいけない理由が分かりません。改めて伺います。
- (3) 糸魚川市の著しい人口減が市民生活に与える影響を考えたときに、駅北子育て

質 問 事 項

支援複合施設基本計画への市民合意、特に被災者住民の理解と協力は不可欠ですがまだ不十分と考えます。まちなかのにぎわいや生活の利便性に寄与するかいまだ明確でない施設建設に15億円、運営に年間5,000万円を20年にわたって支出することに市民は合意していません。市長の考えを伺います。

- (4) 施設運営について市は民間事業者に委託したいものと察していますが、直接であれ間接であれ市はNPO法人すいみいへの委託を前提に支援をしていませんか。市とNPO法人すいみいの関係について、NPO法人すいみいと市議会議員との関係について伺います。
- (5) 駅北キターレ建設は、今振り返れば、需要のない公共事業推進と利権構造構築だったとの疑念が私にはあります。それを踏まえた上で駅北子育て支援複合施設建設の推進に市民理解と協力を求めていくつもりではありますが、官製談合や特定業者への特別な配慮は排除しなければいけません。市長の考えを伺います。

3 大糸線の必要性と廃線・存続・発展について

【答弁者：市長】

- (1) 8月19日から21日まで開催された大糸線ファンミーティングの成果について伺います。
- (2) ファンミーティングの展示会場、小谷村の複合施設「おたりつぐら」で7.11水害の状況とそこからの復興の様子を見て聴いて知ることができました。大災害を切り口とした大糸線の現在性と象徴性と必要性を考えることとなりましたが、協議会からの情報発信としていかがですか、伺います。
- (3) ファンミーティングで知り合った方から、平岩駅の利用増大として蓮華・白馬へのルートの観光利用として、インバウンドへの四季を通じた誘客の工夫をすべきとの意見を頂いていますがいかがですか、伺います。
- (4) 大糸線糸魚川ー南小谷区間を運営するJR西日本と、南小谷より南側の区間を運営するJR東日本との組織の違いから大糸線の活用が図られないとの話をずっと聞かされていますが、何が問題となっているのでしょうか。そのことが解決に向かわないと、たとえ北陸新幹線が敦賀まで延伸しても、白馬・小谷・糸魚川の「白馬バレー日本海広域観光連携」を進めようとしても利用者が大きく増えることはないように思います。沿線都市の首長の皆様はどのような認識を持ち行動されておられるか伺います。
- (5) 民間デベロッパーとえちごトキめき鉄道との協働による糸魚川ー白馬間の大糸線の運営は考えられませんか、伺います。

質 問 事 項

⑫ 阿 部 裕 和

1 デジタル地域通貨「翠ペイ」について

【答弁者：市長】

今年度から運用開始予定のデジタル地域通貨の名称が「翠ペイ」と発表されました。この事業を持続可能なものにするためには、収益サイクルをうまく回し、地域内で循環させる仕組みづくりが肝要だと考えます。そのためには、より多くのお店に加盟していただき、利用者が使いやすいものにする必要があると考えます。

また、市の様々な事業の発信や啓発活動、地域のイベントやボランティア活動等と連携を図ることで、幅広い活用が期待できます。

そうすることで利用者の消費動向や社会参加等をデータとして収集し、解析して行政の政策立案にも活かすこともできると考えます。デジタル地域通貨「翠ペイ」を地域コミュニティ活性化の土台としても活用し、より多くの方に利用していただき、地域経済がうまく循環することに期待しています。

- (1) 今年度から翠ペイ運用開始予定であるが、具体的にいつから運用開始を目指しているか伺います。
- (2) 翠ペイ導入により、どのようなメリットが生まれ、市内においてどのような経済効果が起こると考えますか。
- (3) 翠ペイが使える加盟店を増やす必要があると考えますが、そのための施策について、お考えはありますでしょうか。
- (4) 市民はもちろん、観光客も含めた普及促進が必要と考えますが、そのための施策について、お考えはありますでしょうか。
- (5) 健康づくりやイベントなど、市が指定した事業に参加された方に対して、行政ポイントを付与するお考えはありますでしょうか。
- (6) 「プレミアム商品券」や「市内共通商品券」等、紙ベースの地域通貨の今後の発行について、お考えをお聞かせください。
- (7) 高齢の方でも気軽に使用できる仕組みづくりが必要と考えますが、そのための施策について、お考えはありますでしょうか。

2 「子育てに優しい糸魚川」の実現に向けた取組について

【答弁者：市長】

現在、県では男女が共に働きやすくなるよう、積極的に職場環境の整備に取り組む企業を支援する「ハッピー・パートナー企業登録制度」や、それに加えて男性従業員が育児に参加しやすい職場環境づくり、特に仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組む企業を支援する「パパ・ママ子育て応援プラス認定」など「子育てに優しい新潟県」の実現に向け、取組を進めています。

質 問 事 項

また、今年度の新規事業として、保育や子育てサービス等の従来からの子育て支援に限らず、様々な施策の中に「子育て応援」の観点をプラスすることで、子育てをしている方々の日常生活を様々な場面で後押しする取組「子育て応援プラス」を展開しています。「子育てに優しい糸魚川」の実現に向け、以下伺います。

- (1) 市内で「ハッピー・パートナー企業登録制度」並びに「パパ・ママ子育て応援プラス認定」に参画している企業は何社あり、市内企業全体の何%に当たるのか伺います。
- (2) 市としても市内企業に対し「ハッピー・パートナー企業登録制度」や「パパ・ママ子育て応援プラス認定」などを積極的に周知し、展開していく必要があると考えますが、市の所見を伺います。
- (3) 市としても、様々な施策の中に「子育て応援」の観点をプラスし、政策に反映していくお考えはあるか伺います。

⑬ 田 原 洋 子

1 公営住宅について

【答弁者：市長】

糸魚川市には住宅に困っている人のために、市営住宅と県営住宅があります。

入居資格には世帯の合計所得月額があるため、子どもが就職して世帯所得が増えると入居資格から外れてしまい転居を余儀なくされる場合があります。しかし、数年後、その子どもが独立して世帯が別になった場合は再び入居資格を満たすため、再度入居したいと思う方もいるのではないのでしょうか。

引っ越しは金銭的、体力的、手続にも負担があるため、世帯収入が多くなった場合は家賃が上がっても住み慣れた場所で住み続けたい、という声があります。

また、車の免許を持たない方には買物や通院に不便な立地にあること、足腰に不安がある方にはエレベーターのない上層階は入居する際の大きな壁となることが想像できます。

さらに、建設当時から社会情勢、ライフスタイルは変化しており、最近では、エアコンとインターネットの設備が既に完備されている物件が人気となっています。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 市営住宅と県営住宅の入居率はどれだけありますか。
- (2) 入居率の高い住宅と、入居率の低い住宅の要因は何ですか。
- (3) 入居率を上げるための施策は検討していますか。
- (4) 世帯所得月額と家賃の見直しは検討していますか。

質 問 事 項

- (5) 市営住宅の需要と供給のバランスは取れていると考えていますか。
- (6) 市営住宅の統廃合と民間譲渡は検討していますか。
- (7) 市営住宅が抱える課題は何と捉えていますか。

2 高圧水銀ランプの製造終了とLED切り替えについて

【答弁者：市長】

2017年8月に「水銀に関する水俣条約」が発効し、「水銀による環境汚染の防止に関する法律」が施行されました。2020年12月31日から一般照明用の高圧水銀ランプの製造及び輸出入は、水銀量の含有量にかかわらず原則禁止となっています。

一般照明用の高圧水銀ランプは、公園の外灯、スポーツ施設のナイター設備、体育館の照明などに多く使われています。

家庭に普及している蛍光灯は禁止されているわけではありませんが、一部のメーカーで生産が終了しつつあり、LEDは蛍光灯に比べて価格が高い反面、同じくらいの明るさを照らすのにLEDは消費電力が少ないこと、寿命が長いこと交換の手間と費用が掛からないというメリットもあります。

経済産業省資源エネルギー庁による平成30年度電力需給対策広報調査事業の結果、家庭での消費電力割合はエアコン、冷蔵庫に続いて、夏は照明が3番目に多く、冬は給湯に次いで照明が4番目に多くなっています。

これらを踏まえて、以下の項目について伺います。

- (1) 糸魚川市の公共施設で使われている高圧水銀ランプは何か所あり、LED化率はどれだけありますか。
- (2) 高圧水銀ランプ全てをLEDに交換する場合、費用と年数はどれだけ掛かると試算していますか。
- (3) 高圧水銀ランプをLEDに切替えた場合、電気料金はどれだけ下がると試算していますか。
- (4) 公共施設の蛍光灯をLEDに入れ替える計画はありますか。
- (5) 市民にLEDは消費電力が少なく環境にやさしい、と切替えを促進する考えはありませんか。

3 羅漢和尚について

【答弁者：市長、教育長】

玉瑞和尚は、1807年西海村大久保(現在の市野々)で庄屋、猪又長左エ門の二男として生まれ、8歳で西海の羽生にある耕文寺で仏門に入り、29歳で蓮台寺の昌禅寺17世の住職になりました。

1842年に長年の托鉢で浄財を集め、蓮台寺に500体の石仏を安置した五百羅漢を

質 問 事 項

完成させたことから、羅漢和尚と呼ばれています。

また、1866年に早川の谷根、月不見の池近くに15年かけて越後八十八ヶ所を完成させ、更に各地の峠や山頂に石仏をつくり、行き交う人々の安全を祈り、道標としても役に立っていたと言われていました。

最後は生まれ故郷の大久保に自分の墓をつくり、ひっそりと暮らし77歳で生涯を閉じました。

羅漢和尚の墓は大きな自然石を使い、横長で船のような形をしていて、経文などが彫刻されています。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 羅漢和尚の足跡を巡る歴史講座を開く予定はありませんか。
- (2) 大久保の羅漢和尚の墓には行けますか。
- (3) 紙芝居「羅漢和尚の墓」を観る機会がありますか。
- (4) 羅漢和尚にゆかりのある西海、蓮台寺、早川の子どもたちが羅漢和尚を学ぶ機会がありますか。

⑭ 宮 島 宏

1 市民の安全の確保 身近にある毒を持つ植物について

【答弁者：市長】

市民の安全を確保し、安心な生活を送っていただけるようにすることは極めて重要なことであることは言うまでもありません。当地には毒を持つ野生植物や、公有地と民有地には毒を持つ園芸植物があり、更に状態や部位によっては有毒な野菜があります。しかしながら、公益財団法人日本自然保護協会が指摘しているように、日本では毒のある動植物の紹介が欧米と比べて遅れており、それは当地でも同様と思います。

私は2009年に台湾ジオパークの学会と巡検に出張させていただいた際、台湾の博物館に植えられていたキョウチクトウに付けられたPOISONという警告看板を見て、初めてキョウチクトウが強い毒を持つ植物であることを知り、フォッサマグナミュージアムの化石の谷と御風歌碑近傍のキョウチクトウを伐採することを提案し、伐採しました。以下、毒を持つ植物の市民への周知について伺います。

- (1) キョウチクトウ、イヌサフランなど毒を持つ植物は身近にたくさんあります。また、普通に食べている野菜であっても、その種子、生の状態のもの、未熟なもの、過熟なものに毒があることが知られています。このような身近にある危険な植物の存在を市民に周知する必要はありませんか。

質 問 事 項

- (2) コンフリー（シンフィツム）は健康野菜として栽培されましたが、肝臓へ害があることが分かり、2004年に厚生労働省が摂取を控えるように通達しています。当市での周知はどうなっていますか。

2 石のまち糸魚川で石を安全に楽しむために

【答弁者：市長、教育長】

石のまち糸魚川では、かなり前から石の切断や研磨を個人で楽しみ、更に商品として販売する人がいます。もっとも有名なのはヒスイですが、当地で薬石と呼ばれる流紋岩や、能生川や早川上流域に分布する亀甲石と呼ばれる黒色泥岩を磨いて、床の間などに飾ることもされてきました。石の切断や研磨の際の安全の確保について、以下伺います。

- (1) 石の粉末を吸引したことによる健康被害は、じん肺として知られています。趣味や商売で石の切断や研磨の際に発生する石の粉末を吸引しないようにすることを市民へ周知していますか。
- (2) 当地にある蛇紋岩・ネフライト・苦土リーベック閃石含有曹長岩には、アスベスト鉱物が含まれています。このことはご存じですか。
- (3) 蛇紋岩やネフライトの粉末の危険性や、それを吸引しないようにすることや、飛散しないようにすることを市民へ周知していますか。
- (4) 糸魚川中学校には研磨クラブがあり、生徒が石の加工を行っています。加工の際に防じんマスク・安全保護メガネを着用していますか。
- (5) 今後行われる蠟石ろうせきを使った勾玉づくり体験の際は、水を使って粉末の飛散防止や防じんマスク着用をされますか。
- (6) フォッサマグナミュージアムの化石の谷で、素足にサンダル履きの採集者がいました。化石の谷には鋭利に割れた石灰岩片がありますので大変危険です。サンダル履きでの採集は禁止すべきではありませんか。

質 問 事 項

⑮ 古 畑 浩 一

1 人口減対策と少子化対策について、糸魚川の未来を考え財政面も考慮し、総合的に持続可能な街づくりに取り組むべきではないか。

【答弁者：市長】

人口が4万人を割り込み、大きな問題として取り上げましたが、それから半年余りが経過し、本年8月の人口は39,191人となり、人口減少は歯止めがかからず、逆に拍車がかかってきております。

これまでも「医・職・住」への取組、イトヨプランなど総合的取組を提言してきたが、このような状況をどのように分析し、対策を講じているのかお聞かせください。

- (1) 人口減問題をどのように分析しているのか、データも併せてお聞かせください。
- (2) 保育士不足や会計年度任用職員との格差是正、給食費の是正などを図るべきではないか。また、保育園の民営化にも積極的に取り組むべきではないか。
- (3) 糸魚川市で子どもが産めない状況をどうするのか。
- (4) 未満児保育の無償化について取り組むべきではないか。
- (5) 駅北子育て支援複合施設について、パブリックコメントや市民の声も厳しいものが多いです。どのように対処していくのかお聞かせください。
- (6) 図書館や歴史民俗資料館の老築化も著しいが、整備計画などあるのか。
- (7) 新潟県が起債許可団体になったが、どのような影響を及ぼすのか。

2 ジオパル・鉄道ジオラマの運営について

【答弁者：市長】

新幹線駅開業と共にオープンしたジオステーション・ジオパル内に設置された鉄道ジオラマ。その管理運営、メンテナンスはどうなっているのかお聞かせください。

3 いじめ・不登校の現状と対策について

【答弁者：教育長】

不登校は全国的にも過去最多を記録し、糸魚川市においても昨年度比、2倍強を記録するなど深刻な状況となっている。

いじめ・不登校の現状と対策について、どう対応しているのかお聞かせください。